

2024 年 12 月 4 日

報道機関 各位

多文化社会学部 10 周年記念連続講演

「多文化社会学的思考とグローバル日本研究の課題—アジアからみた日本, 日本からみたアジア」 第3回「ブタとコメからみた食文化-東アジア人類史という視点から-」

多文化社会学部は昨年度に設立10周年を迎えました。学部発足から10年が経過した現在、世界は急速に不安定さを増し、潜在的リスクへの不安が従来の世界観を揺るがしています。

このような状況において、多文化社会(学)的な幅広い視野と思考、人類の共生を追求する学部の視点は、この10年でその重要性を一層増しています。そこで、多文化社会学部と多文化社会研究科が主催となり、「アジアからみた日本、日本からみたアジア」をテーマに多文化社会学部10周年記念連続講演を開催し、招聘者による講演や発題を通じて、多文化社会学におけるグローバルおよび日本研究の課題について討論します。

第3回となる今回の講演では、「ブタとコメからみた食文化-東アジア人類史という視点から-」と題し、国立歴史民俗博物館館長の西谷大氏をお迎えします。コメは日本列島に伝わって以降、政治・経済・文化・日本各地の祭り等に多大な影響をあたえてきました。日本の歴史はコメを中心に動いてきたという見方も可能です。一方の中国では、ブタという視点で特に古代の歴史をたどると、気候や人口変動、自然環境の変遷、自然災害、民族移動、戦争、飢餓等と帝国の衰亡との関係性まで垣間みることができるのです。

フィールドワークや考古学上の資料を基に、東アジア的視点とは何かについて考察します。



ブタ便所の明器（漢時代）



雲南省者米谷・アールー族の棚田



雲南省者米谷・ヤオ族のブタ。

【開催日時等】

- 第3回：令和6年12月6日（金）

〔時 間〕 16：10－17：40

〔会 場〕 長崎大学文教キャンパス総合教育研究棟3階 31 講義室（別紙参照）

〔講演者〕 国立歴史民俗博物館館長 西谷 大

「ブタとコメからみた食文化 -東アジア人類史という視点から-」

※どなたでもご自由にご参加いただけます。

- 主 催：長崎大学多文化社会学部
- 参加費：無料
- 事前申込不要

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学多文化・教育学事務課 総務第一係

TEL:095-819-2934

e-mail:hss_soumu@ml.nagasaki-u.ac.jp

【参考情報】

- ・ 多文化社会学部ホームページ

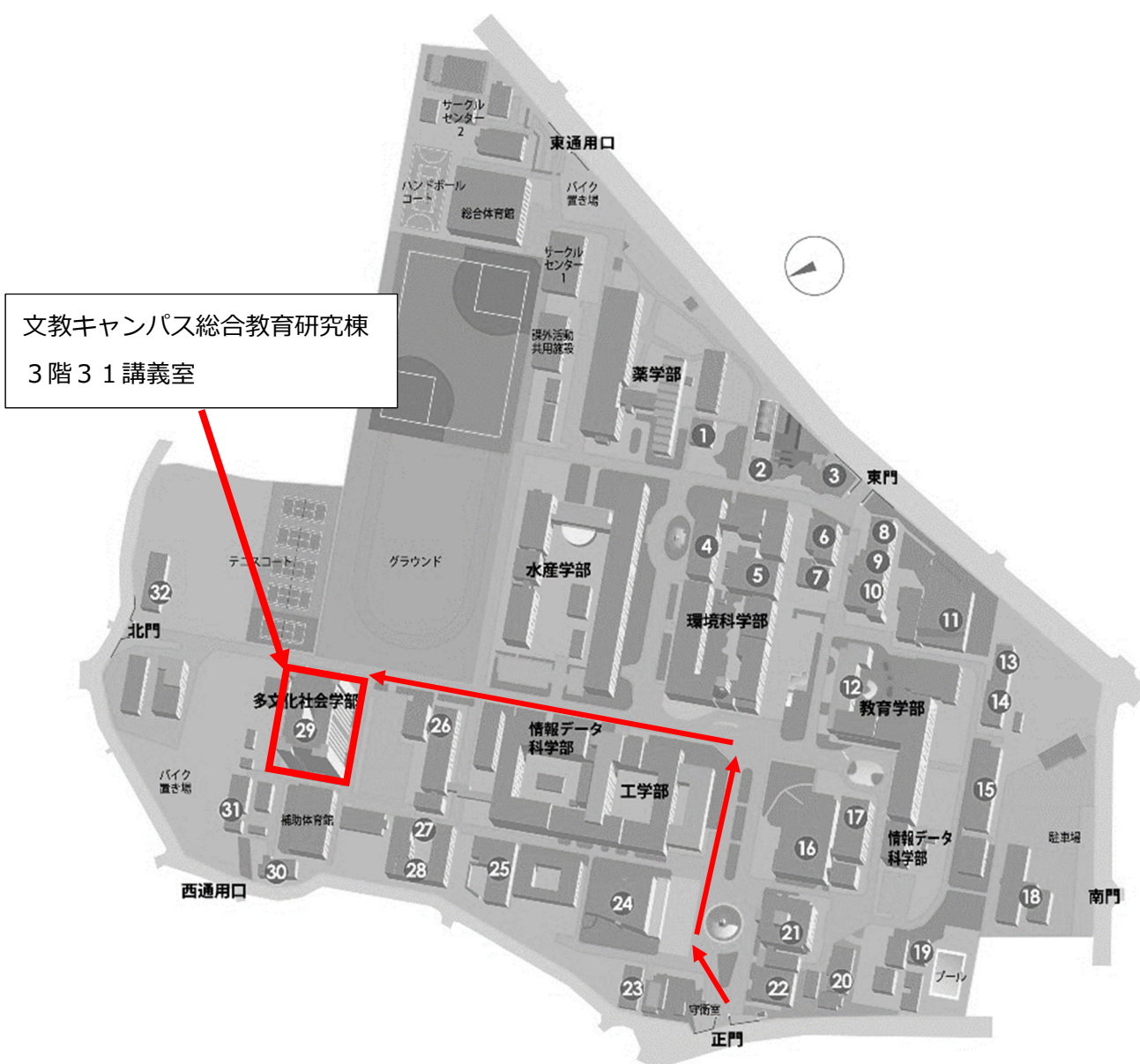
<https://www.hss.nagasaki-u.ac.jp/>

- ・ 長崎大学多文化社会学部 10 周年記念連続講演

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/event/event1643.html>



【会場案内】



多文化社会学的思考と
グローバル・日本研究の課題



多文化社会学部10周年記念リレー講演

一般参加者
入場
無料
申込不要

第一回 2024 10.3 木曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 文教スカイホール
「平和社会学の創生—
共生と平和へのグローバルな視点」
[講演者] 名古屋大学名誉教授 西原 和久

第二回 11.14 木曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 31講義室
総合教育研究棟3階
「多文化アジアの可能性:
フィリピンと日本から考える」
[講演者] 京都大学名誉教授 清水 展

第三回 12.6 金曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 31講義室
総合教育研究棟3階
「ブタとコメからみた食文化
-東アジア人類史という視点から-」
[講演者] 国立歴史民俗博物館館長 西谷 大

第四回 12.12 木曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 文教スカイホール
「近世日中文化交流史と長崎
-「東アジア学」研究の発展を兼ねて-」
[講演者] 東呉大学講座教授/中国文化大学前学長 徐 興慶
討論: 長崎大学名誉教授 佐久間 正

第五回 12.14 土曜日
[時間] 13:00-15:30
[会場] 文教スカイホール
「東アジアの平和と朝鮮半島」シンポジウム
[講演者] 韓神大学校教授 李 起豪
北韓大学校教授 具 甲佑

第六回 2025 1.9 木曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 文教スカイホール
「多文化的視点から見る
グローバル化チャイナ」
[講演者] シンガポール南洋理工工科大学学長補佐・教授 劉 宏
討論: 武蔵野美術大学造形学院教授 廖 赤陽

多文化社会学的思考とグローバル・日本研究の課題 —アジアからみた日本, 日本からみたアジア—

多文化社会学部発足から10年が経過した現在、世界は不安定化と変動の激しさを増し、潜在的リスクへの不安が従来の世界観を変えようとしています。多文化社会(学)的な思考の幅広い視野と人類の共生する姿を突き詰める、この学部視点はこの10年で、さらに重要性を増しています。多文化社会学部および多文化社会研究科主催のシンポジウム、講演会の招聘者を中心に「アジアからみた日本, 日本からみたアジア」をテーマに講演、発題いただき、多文化社会学としてのグローバル・日本研究の課題について討論します。

講演者、討論者のプロフィール

「平和社会学の創生— 共生と平和へのグローバルな視点」 第一回:10月3日 講演

西原 和久 (にしはら かずひさ)



名古屋大学名誉教授、成城大学名誉教授、南京大学客員教授。専門は社会学理論、現象学的社会学、国際社会学、平和社会学研究。日本社会学理論学会会長、国際社会学科学団体連盟副会長、日本社会史学会などの理事を歴任。現日中社会学会会長。著書に『トランスナショナリズム論序説—移民・沖縄・国家』(新泉社2018)、『現代国際社会学のフロンティア—アジア太平洋の越境者をめぐるトランスナショナル社会学』(東信堂2020)、『グローバル化する社会と意識のイノベーション—国際社会学と歴史社会学の思想的交差』(東信堂2021)など多数。

「近世日中文化交流史と長崎-「東アジア学」研究の発展を兼ねて-」 第四回:12月12日 講演

徐 興慶 (じょ こうけい)



【歴史学・比較思想史】九州大学大学院文学博士(1992)、関西大学文化交渉学論文博士(2012)。専門は朱舜水研究、近世日中文化交流史、近代日中思想交流史。台湾大学日本語文学科教授/日本語文庫研究所所長。台湾中国文化大学学長を経て現在、東吳大学講座教授。台湾大学教授時代の2013年に同大学に日本研究センターを設立する。主著に『近代日中思想交流史の研究』(朋友出版、2004)『朱舜水と東アジア文化傳播の世界』(東亞文明研究叢書78(台大出版センター、2008)『東アジアの覚醒—近代日中知識人の自他認識』(研文出版、2014)など多数。

佐久間 正 (さくまだし)



【日本思想史】東北大学大学院文学研究科博士課程修了。専門は日本思想史(徳川思想・環境思想)。長崎大学名誉教授。1996年9月から1年間、カイロ大学文学部日本語日本文学科長(客員教授)。2006年に長崎大学環境科学部長、長崎大学理事を経て2014年に多文化社会学部初代学部長。日本思想史学会評議員などを歴任。主著に『徳川日本の思想形成と儒教』(ぺりかん社(2007))、『家業道徳論』の世界-近世思想史における普遍と特殊-』(ぺりかん社(1997)など多数。

「多文化アジアの可能性: フィリピンと日本から考える」 第二回:11月14日 講演

清水展 (しみず ひろむ)



京都大学名誉教授、社会学博士。文化人類学、東南アジア研究。東京大学助手、九州大学教養部助教授、同大学大学院比較社会文化研究院教授、京都大学東南アジア研究所教授・所長、関西大学特任教授などを歴任。主著として『文化のなかの政治:フィリピン「二月」革命(1991)の物語』、『草の根グローバリゼーション』(2013)、『アエタ 灰のなかの未来:大噴火と創造的復興の写真民族誌』(2024)、などがある。第11回日本文化人類学会賞(2016)、第107回学士院賞(2017)などを受賞。

「東アジアの平和と朝鮮半島」シンポジウム 第五回:12月14日 講演

李 起豪 (イ・キホ)



韓国延世大学校政治学博士。専門は、東アジア市民社会と平和運動。韓国平和フォーラム事務局長を経て韓国韓信大学校平和・公共性センター長、教授。2003年から2006年、北朝鮮と韓国の平和と協力をテーマに韓国平和フォーラム事務局長を務めたほか、盧武鉉政権時代、北東アジア構想大統領委員会の諮問委員を担当。RECNAポリシーペーパーNo.15『これからの軍縮教育:日韓の視点から』(2022)。

具 甲佑 (グ・カフ)



ソウル大学校政治学博士。慶南大学北韓大学院大学助教授を経て2010年から北韓大学院大学教授。専門は平和学、南北朝鮮政治。著書に『朝鮮半島国際関係史の再認識』(共著、2021)、『安保の論理、平和の論理』(共著、2021)、『批判的平和研究と朝鮮半島』(単著、2007)ほか多数。

「ブタとコメからみた食文化- 東アジア人類史という視点から-」 第三回:12月6日 講演

西谷 大 (にしに まさる)



大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館館長。文学博士考古学、東アジア人類史研究。国立歴史民俗博物館研究部准教授、同館研究部教授、総合研究大学院大学教授(併任)を経て2020年より現職。主著として『食べ物と自然の秘密』(2003)、『多民族の住む谷間の民族誌 生業と市からみた環境利用と市場メカニズムの生起』(2011)、『写真紀行 雲のうへの千枝ダム 中国雲南・大欄田地帯』(2017)などがある。

「多文化的視点から見るグローバル化チャイナ」 第六回:1月9日 講演

劉 宏 (りゅう ほん)



廈門大学、復旦大学を卒業。シンガポール国立大学人文社会科学学部を経て2000年に終身在職。2006年から2010年、英マンチェスター大学東アジア研究の主任教授および中国研究センターの初代所長。南洋理工大学の人文社会科学部学部長、同大学社会科学部学部長を経て、現在同大学副学長。専門は政治学。主な研究分野は中国とグローバル化、中国と東南アジアの関係、一帯一路、公共外交、海外華人、公共政策など。主な著書に『The Political Economy of Transnational Governance』(Routledge, 2022)など。

廖 赤陽 (りょう せきやう)



【歴史・思想】武蔵野美術大学教授。専門は、東アジアの歴史社会、華僑人史。国立華僑大学で助教、講師、東京大学講師などを経て現職。日本華人教授会代表や全日本華僑華人連合会副会長も歴任。関連著書は『国境を越えて:留学生と新華僑』(中国語)、『大潮のうねり:改革開放と日本留学』(中国語)、『市場・社会・国家の間:東アジア開講場の華商とアジア地域ネットワーク』(中国語)、『長崎華商と東アジア交易ネットワークの形成』(日本語)などがある。

お問い合わせ先

長崎大学多文化社会学部 事務室

TEL:095-819-2934 / FAX:095-819-2912 E-mail:hss_soumu@ml.nagasaki-u.ac.jp